

作品ができればいいっていうもんじゃーないんだよ

熊本大学教育学部附属小学校 前田康裕(yasu@aminet.or.jp)

1. はじめに

マニュアル活用プロジェクトでは、子ども用マニュアルの開発と活用に取り組みました。その成果としては、子どものデジタル表現の幅を広げることができたことです。しかし、作品ができればいいというものではないはずです。授業を設計していく上で重要な「学習のプロセス」を明確にし、子どもの学びを明らかにしていく必要があります。その中で子どもの学びをクローズアップしていき、教師の手だてを探っていきたいと思います。

2. 授業実践1「光のポストカードを作ろう」

私たちの身の回りには、様々な「光」が満ちあふれています。きらきらと水面に反射する光、心をなごませる木漏れ日、ガラスのコップを輝かせる光。この授業では、生活にあふれる「光」をデジタルカメラで撮影して、一瞬の「美」を味わうことをねらいとしています。

(1) 参考作品を鑑賞しよう

まず、教師から参考作品を提示することになりました。窓や食器といった身の回りの物を美しく撮影してある市販のポストカードです。子どもたちは「わー、きれいなあ。」「ほしいなあ。」と、つぶやいていました。次に、教師の方であらかじめ撮影しておいた映像を子どもたちに見せます。水道の蛇口や、プラスチックでできた傘の柄などです。子どもたちからは、「おーっ」という歓声が上がりました。そこで、次のように呼びかけます。



次の図画工作の時間には、デジタルカメラを使って「光のポストカード」を作ります。家の中で「光が輝いて美しく見える物」をさがして、持ってきてみましょう。

こうした**鑑賞の活動**で、子どもたちの意欲はぐんと高まっていきます。

(2) いよいよ撮影開始！

子どもたちは自宅から様々な物を持ってきていました。ビー玉やガラスのコップ、プラスチックや金属でできたネックレスや置物などです。4人グループで交代で撮影するようにしました。

光をあてて、美しいと感じる場面を撮影しましょう。同じ物でも光の向きを変えたり、撮影する位置を変えたりして、色々な映像を作りましょう。友達に持ってもらったり、意見をもらったりしながら協力して活動しましょう。

子どもたちは、デジタルカメラをもって教室を飛び出していきます。それぞれに話し合い、アイデアを出し合って作業をすすめることによって、新しい見方を獲得できるようになります。また、友達と協力しながら撮影することによって学習に参加したという意識を高めることにもつながります。

(3) グラフィックソフトで修正してみようーマニュアルを活用してー

グラフィックソフトを使って、パソコンに取り込んだ画像をさらに美しくなるようにします。教師側から修正の方法を指導します。画像ソフトの「明るさ・コントラスト」を調整するだけの作業です。子ども用マニュアルが活用できます。子どもたちは、明るい部分はより明るくなるように、調整していきました。何度も試しながら、美しい画像へと変換させることができるのです。

(4) みんなの作品を鑑賞してポストカードに印刷しよう

まず、それぞれのコンピュータに完成作品を提示します。子どもたちは、それぞれの作品のよいところを鑑賞カードに記入していきます。次に、作品をプロジェクタで見せます。音楽をつけて40人分の作品が、一度に見られるようにしました。美しい映像に子どもたちは歓声をあげながら見ていきました。最後に、それぞれにポストカードに印刷して持って帰らせます。保護者の方々から「きらきらして本当にきれいだね。」「写す角度がいいねえ。」といった感想をもらっていました。このような**相互評価を含む鑑賞活動**は、子どもたちの達成感や満足感を高めています。



2. 授業実践2「学校で使えるポスターを作ろう」

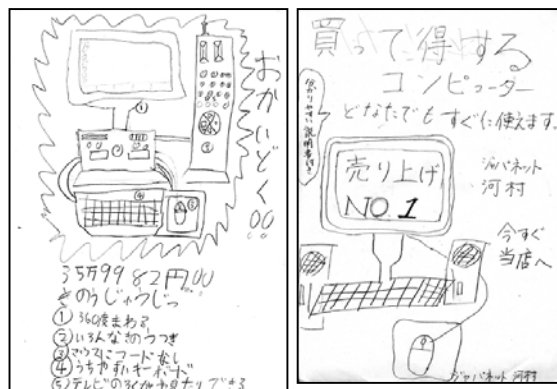
自分の考えたポスターと本物のポスターとを比較することで、本物のポスターに含まれる「効果的に伝えるための要素」に気づくことができるようになることをねらっています。また、学校生活の中で気づいたことを写真に撮影し、「効果的に伝えるための要素」を活かしながらポスターを制作することができますようになります。

(1)「販売促進用のポスター」を描いてみよう

最初に、次のように告げます。

あなたは、コンピュータ会社の宣伝担当です。コンピュータのための販売促進のためのポスターの原案を描きなさい。

ほとんどの子どもたちは、真ん中に大きく「売りたい物」を描き、たくさん文字を入れました。そこで、はじめて「本物のポスター」を見せます。そこに**驚きがあり、様々な発見をするはず**です。



(2)撮影してつくってみよう

「驚きや不思議な感じを出すための工夫」「キャッチコピーの重要性」「文字の大きさと配列」などに気づくこととなります。そして、子どもたちは、取材のために、デジタルカメラをもって校の中の様々なものを撮影していきます。

(3)ポスターをつくってみよう

このときは、**こども用マニュアル**が活用できます。文字の入れ方や加工、画像の合成などが、子どもたちだけでできるようになります。表現の幅をぐっと広げていくことになります。

(3) みんなの作品を鑑賞しようー実際に使ってみよう

最後は、印刷されたポスターを元に、作品のよさを話し合っていきます。「キャッチコピーがすばらしい」「映像が面白い」といったコメントがかえってきます。それに加えて、作品を学校内にはり、実際に下級生に使ってみることをねらいとしています。このような活用が、**子どもたちの達成感を高めること**になっていきました。

